

<今回>3452回目 2024年32月255日(月)14時~17時 6011会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読朝日文庫 p529510、無称号の理由両者は対等位置 より

<前回>344回144目(24-34-1129)出席者109名

資料1)42-3-1第3436回(24-24-1929)のまとめ(清水)

資料2)妙心寺の鐘銘について百済人祢氏の墓碑銘(気賀沢、岩田、藤田清水)

資料3)隅田八幡神社鏡銘(古田、榛葉)

資料4)朝日新聞1月24日れきし歩き岩戸山古墳(高木)

書式変更: インデント: 最初の行: 4 字

A 報告 高山氏が変わらぬ姿で参加してくれた。金曜webは藤田氏が妙心寺の鐘の内部の陽刻の銘文の解説を行った。筑紫の観世音寺の鐘の銘とも一致する。兄弟鐘である。で服部氏が藤原不比等の過大評価説に疑問を呈する発表があった。各種資料を用いて、説得性が高い発表であった。私は「多胡碑」に不比等の名前が出ていたと質問した。いろんな資料から関西の服部氏が不比等の権力基盤についての考察が論理的だったのを受けて質問した。多胡碑については後日丁寧な紹介を受けた。「羊」は周囲が郡司に任命されたのを疑問視しているのを、打ち消すために、上位3名の最下位(第3位)の不比等の名を出したのは、中央政界で最大の実力者と評価されていたのではないかという意味で質問した。入手経緯、時期、徒然草まで引用して深い紹介をした。今は国宝として保管され、妙心寺には模造品がつるされている。音律のもとになっているという。今回資料を1ページ配布・あとの分は回覧とした。

B資料 2)前回の金曜 web は服部静尚氏の「卑弥呼のもらった鏡は三角縁神獣鏡か」と題して32頁の論文を発表していた。平原古墳の32面の破壊された鏡の中に尚方作と鋳出された鏡は宮廷の工房で作られたことを示している。また途中用事があり、退席し、最後まで聞けなかった。ただ割れた鏡は一番軽い水素が抜けて自然破壊に至る性質があり、故意に割ったかどうか、慎重に判断を要するという。(彼は金属工学を学んだ理数系)。私は銅鐸の破壊についてはどう考えるか、尋ねた。叩いてへこんだという跡はないから、自然破壊も考えうろという答えだった。(銅鐸民族は近畿に侵入してきた神武らが畿内の銅鐸を鋳潰して鍍にした、だから畿内に銅鐸の出土はない。それを見聞きて恐怖が千里を走り、遠州など周囲の銅鐸民が山中にかくしたか、破壊したと思っている。出雲では隠された状態で破壊はされていない)その席上、配布を受けた、「百済祢軍墓碑銘」の解説状況が解説されていたので紹介した。発見当

時、古代「日本」の呼称の最古の金石文と云う報道があった。が祢軍は白村江の占領軍の一員として日本書紀に

も名前が出ている。弟の墓碑は西安から出ていて北京博物館に現在保管されているという。扶桑の文字もある。660年百済が滅亡した時に唐に降伏して、唐の下級將軍として、活躍した。出所は北京の古物商から、拓本として出てきたもの、解説の様子を書いてある。最初の公表は2012年3月である。明治大学の気賀澤氏が発表した。朝鮮の軍將が一族、内陸の西安に墓標があると言うのは、朝鮮問題が片付いて、内陸地の兵隊の長に任命されていたのではないかと推定される。封禪の儀の倭国酋長は誰であったか、サチヤマか。

3)榛葉氏より、隅田八幡神社の順佛画像鏡の解説の原史料として配布された。左文、読み方などの参考になる。

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 0 字

~~皆で画像を透かして見て、左文の意味を味わった。丁度今、読書している最中である。~~

~~4) 高木氏が朝日新聞24日の記事を紹介してくれた。新聞記者の文章は巧く現状をまとめている。磐井について岩戸山古墳が彼の墳墓と確定された経緯や、別区の裁判制度の評価など、話題になった。更に古田先生は何故「磐井継体戦争はなかった」論に変更されたか、調べるようになった。~~

C 読書 朝日文庫版:p52406、オシサカイシサカ9行目、なお井上光貞は から

~~(1) 1) 日本書紀の押坂宮、押坂大兄の皇子、押坂墓、押坂陵からオシサカとしてきた。隅田八幡神社の人物画像鏡の読み方について、水野裕の説に賛同したが、日十を八月十日の意味に採った。理由は「倭の五王」を日本書紀の允恭にして、癸未年は443年とした。忍坂之大中津比売を意柴沙加宮とした。「寿」は「泰」である。①字形判定—左右対称に近い。奉か泰の左文か、直後の「遺」は左文である。(左文とは裏返しにした文字の用法、刻むのは困難、左右逆になる。)②対等の論理、従来説は大王・男弟王—天皇、斯麻を配下の人物に当てていた。③「遺」の用例を多数出している。遺(使者)+敬語(奉、朝、献)の動詞。この鏡の場合は取、作の動詞で敬語表現がない。高橋健白氏は念長寿を年長奉と判読して—を奉ると読解した。(在銘最古日本鏡大正3年)がこのような文型は存在しない。敬語は遺の下に来る文例を上げた。A「意」の文字は意能基呂島、意富加牟豆美命、意富加羅国としてオと読んでいる。B 百濟本記では委の意斯移麻岐弥と読んでいる。この時期に中国側では「意」にイの音である。~~

~~2) 切(セツ)の用法について。広韻、集韻といって6, 7世紀の音の表し方を云う。二つの漢字の第1字の子音と第2字の母音で対象とする音を表す方法である。国語辞典では「反切」といい、中国で漢字の字音を示すのに、他の漢字2つを組み合わせて示す方法。例は東tongの発音を{徳tokの頭子音と紅hongの韻ong}を併せてtongと構成する類。と説明している。この本では移をイとして余支切yoshiでイとしているがよくわからない。~~

~~3) 百濟本記の人名 倭 OO 君は九州王朝の君主名、倭石の今君と読む。(筑紫の王者石井かもしれない)~~

~~4) 人物画像鏡に対して古田は百濟の武寧王が九州王朝に対して、送ったものと解した。とすれば意斯沙加宮は石坂である。筑後風土記の衙頭の記事から石造文化の宮殿の一つに石坂の宮と石刃、石馬の多さから推定される。~~

~~5) 鏡の贈呈者本人からの贈呈の辞だからOOの宮は大王・男弟王の天下を統治した正殿そのものを指す。人物画像鏡の石坂宮は日十大王年・男弟王の兄弟執政の中心地、九州王朝の当時の正殿を指していたのである。~~

~~2024-2-5(月) 14時から17時 601会議室~~

~~2-19(月) 14時から17時 602会議室 4-8(月) 14時から17時 601会議室~~

~~4-22(月) 14時から17時 602会議室~~

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 0 字

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 0 mm

書式変更: インデント: 左: 6.3 mm